【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第２区分
【発行日】平成26年8月7日(2014.8.7)

【公開番号】特開2013-45804(P2013-45804A)
【公開日】平成25年3月4日(2013.3.4)
【年通号数】公開・登録公報2013-011
【出願番号】特願2011-180700(P2011-180700)
【国際特許分類】
Ｈ０５Ｋ　1/11　(2006.01)
Ｈ０５Ｋ　3/46　(2006.01)
Ｈ０５Ｋ　1/05　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０５Ｋ　1/11　Ｎ
Ｈ０５Ｋ　3/46　Ｎ
Ｈ０５Ｋ　1/05　Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成26年6月25日(2014.6.25)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
アルミニウムの陽極酸化膜からなる板状体と、前記板状体を厚さ方向に貫通する複数の線状導体と、を備えた無機材料部と、
平面視において、前記無機材料部の周囲に形成されたアルミニウムと、
前記複数の線状導体の一端面が露出する前記無機材料部の一方の面を少なくとも覆うように設けられた第１金属層と、
前記複数の線状導体の他端面が露出する前記無機材料部の他方の面を少なくとも覆うように設けられた第２金属層と、を有し、
前記線状導体は、隣接する前記線状導体の間隔が、前記線状導体の直径よりも小さくなるように形成されている基材。
【請求項２】
前記アルミニウムの一方の面は、前記無機材料部の一方の面と面一であり、
前記アルミニウムの他方の面は、前記無機材料部の他方の面と面一である請求項１記載の基材。
【請求項３】
アルミニウムの陽極酸化膜からなる板状体と、前記板状体を厚さ方向に貫通する複数の貫通孔と、を備えた無機材料部と、
平面視において、前記無機材料部の周囲に形成されたアルミニウムと、を有し、
前記貫通孔は、隣接する前記貫通孔の間隔が、前記貫通孔の直径よりも小さくなるように形成されている基材。
【請求項４】
前記アルミニウムは、前記複数の貫通孔の一方の端部が露出する前記無機材料部の何れか一の面に延在し、前記何れか一の面を覆っている請求項３記載の基材。
【請求項５】
前記複数の貫通孔には金属材料が充填されている請求項３又は４記載の基材。

【請求項６】
前記無機材料部の前記何れか一の面の反対面を少なくとも覆うように金属層が設けられている請求項５記載の基材。
【請求項７】
前記無機材料部は複数個形成されており、
平面視において、複数の前記無機材料部の周囲に前記アルミニウムが一体的に形成されている請求項１乃至６の何れか一項記載の基材。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００６】
本基材の一形態は、アルミニウムの陽極酸化膜からなる板状体と、前記板状体を厚さ方向に貫通する複数の線状導体と、を備えた無機材料部と、平面視において、前記無機材料部の周囲に形成されたアルミニウムと、前記複数の線状導体の一端面が露出する前記無機材料部の一方の面を少なくとも覆うように設けられた第１金属層と、前記複数の線状導体の他端面が露出する前記無機材料部の他方の面を少なくとも覆うように設けられた第２金属層と、を有し、前記線状導体は、隣接する前記線状導体の間隔が、前記線状導体の直径よりも小さくなるように形成されていることを要件とする。